

活 動 記 録 書

開 催 日： 令和7年4月3日(木) 天候 小雨	開催テーマ： 古東海道の古刹めぐり
開催場所： 横須賀市	記 入 者： 林 元一
参加人数： 会員16名 ビジター1名 計17名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など） コース： 京急新大津駅～諏訪神社～妙真寺(昇堂拝観)～曹源寺(昇堂拝観)～光心寺～JR衣笠駅(解散) 当日は京急新大津駅に17名が集合。当日の天気予報が雨模様であったせいか欠席者が多く少し寂しい探訪となった。気温10℃で小雨の中、諏訪神社に向かう。創建は天長元年（824）で信濃国諏訪大社から勧請された。祭神は建御名方命（たけみなかたのみこと）で武勇の神様。古来より「大津」は幕府の置かれた鎌倉や江戸に出入りする物資を中継する湊として東京湾を臨む舟の渡し場の役割を担ってきたと思われ、そこを見守ってきた祖神様（おやがみさま）として、「大津のおすわさま」と呼ばれている。 この後、古東海道（近世の西浦賀道）に沿って寺社を訪れていくことになる。次の愛染稲荷は、文化14年（1817）に住民七兵衛が、稲の豊作を願って、江戸加賀町愛染寺の許しを受けて建立したと伝えられている。次の妙真寺への道中に根岸の庚申塔がある。天明8年（1788）から平成8年（1996）の庚申塔が集められている。 妙真寺は山号が神金山、日蓮宗、本尊は日蓮上人坐像。応永元年（1394年）公郷村の豪族、石渡入道妙浄が開基。大明（妙）寺、妙栄寺、妙真寺、妙蔵寺、妙覚寺と「妙」の字が付く五ヶ寺に祀られている日蓮上人坐像の内、妙真寺の座像が唯一元和6年（1620年）に作られた姿を今にのこしている。鰐口（堂前につるされ、参詣者が綱を振って打ち鳴らす金属製の打具）は横須賀市指定重要有形文化財であり、現在は最近製作されたものが堂前につるされており、文化財現物を堂内で手にすることができた。また「神金の共有金の碑」があり、碑文には神金の豪農石渡家の12代賢素（通称 吉右衛門）が住民に毎晩一束の縄を作らせそれを売って妙真寺の補修や飢饉の際に住民の飢えを乗り切ったとある。 次に曹源寺に向かう。山号が東光山、曹洞宗、本尊は薬師如来。奈良時代後期に高僧行基が創建を伝える古刹で、古くは宗元、または宗源の文字を用いた。当時は三浦半島最大のお寺で宗元寺は三浦半島の政治、文化の中心的存在であった。現在の曹源の文字は、江戸時代再興の折に曹洞宗に属したことから使われるようになる。鎌倉時代初期の運慶派の作とされる木造十二神将立像は十二体がすべて揃っており国指定重要文化財（現在は県立金沢文庫に寄託）である。室内ではレプリカが安置されていた。 次の光心寺への道中に宝塔十字路の碑がある。日蓮宗金谷山大明寺と猿海山龍本寺を結ぶ道標となる碑である。鎌倉時代には、ここから佐野・不入斗を通して深田台の龍本寺まで、松並木の参道が続いていたと伝わる。 光心寺は山号が楠箇山、浄土宗、本尊は夢窓国師の作と伝えられる十一面観音菩薩像。本堂横には、忠魂祠堂（ちゅうしどう）というお堂があり、ここには大戦の戦没者と自衛隊の殉職者の位牌が奉られている。また大正3年に横須賀工廠で完成した軍艦比叡の鎮魂碑が昭和57年（1982）に建立された。 出発来ずと傘をさしてJR衣笠駅に到着解散。	
参加者の状況・意見など： 寒い中また小雨の中の探訪ではあったが、巡った寺社は何れも綺麗に保たれており檀家や氏子の普段の活動が感じられる。	
次回の予定： ・令和7年4月11日(金)10時(受付9時30分) 金沢公会堂多目的室 令和6年度定時総会	